◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

北教だより

茨城県県北教育事務所
令和３年８月３１日（火）
第６号
電話　0294－34－0774
FAX　0294－32－0006
E-mail　hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

今こそ組織力を生かした対応を

子供たちのキラキラした表情や、賑やかで明るい声に包まれ、９月がスタートするはずでした。

現在各市教委・学校では、リモート学習の実施に向け、準備を進められていることと思います。

この、誰も体験したことのない未曾有の災害を前に、問われ続けているのは的確な対応です。そのためには、組織で迅速に正確な情報を共有し、共通認識を持つことが大切です。

現在、県北教育事務所もかかわらせていただきながら、市教委と市学校長会、各市内学校長・学校間で連携し適切に対応していただいております。

今後も、新型コロナウィルス感染症の感染状況により、様々な対応を必要とする可能性があります。その対応を子供たちや保護者に具体的に行うのが、各学校であり先生方です。

今一度、校長先生方のリーダーシップのもと組織が結束し、組織力を高め、学校のグランドデザインに則った学校経営を進めていただきたいと思います。

以下に、茨城県教育研修センターの資料の一部を示します。参考にしていただければ幸いです。

学校の組織力を高めるために実践している取組

◇教員評価を活用し、課題を明確にして取り組む。
◇学校経営のボトムアップ化を推進する。
◇ミドルリーダーを育成・活用し、学校経営への参画意識を高める。　**（←県北事務所が挿入した）**
◇何でも話し合える、相談できる教職員間の雰囲気づくりに努める。
◇学校の課題の共有とその解決に向けての方策の共通理解を図る。
◇グランドデザインを基に、学校組織を生かし、計画的に学校評価に取り組む。
◇教職員のコミュニケーションを活性化し、関係性を向上させる。
◇運営機構における明確な分担と協働体制を構築する。
◇若手教員とベテラン教員が融合し、課題に対処できる学校の雰囲気をつくる。
◇教頭と主任・主事等との連携による教職員への指導・助言体制を確立する。
◇学校課題に関して中核教員と定期的に意見交換する場を設定する。

参考資料　・「学校の組織力を高める校内研修の展開」より一部抜粋　平成25年３月　茨城県教育研修センター

1人1台端末の効果的な活用に向けて（国語科）

国語科においては、目指す資質・能力の育成に向け、生徒が１台ずつ端末を持つ状況下において、**「ICTを活用することで何が可能となるだろうか、どのような資質・能力を一層効果的に育成することができるだろうか」**と考えて、授業を構想していくことが重要です。今回は、１人１台端末の効果的な活用例を紹介します。

○「C読むこと」領域における１人１台端末活用例

○目的に応じて印や付箋等を付しながら、個々にとって必要な情報を正確に読む

例えば、生徒がインターネットから集めた情報を読む際、１人１台端末であれば次のことが可能です。

○必要な情報を**ＰＤＦに保存**し、必要とする箇所に印や付箋等を付しながらじっくり読むことができる。
○検索した情報を引用したい場合、**コピーアンドペースト**することで正確に引用することができる。

⇩

情報を正確に読み、目的に応じて適切な箇所を活用することにつながる。

資料を適切に引用するためには、**客観性や信頼性の高い資料を選んで用いる指導**も必要です。「引用」の際には、**かぎ（「　」）でくくること、出典を明示すること、引用する文章が適切な量であるか**などが求められます。

１人１台端末を持つことで、主体的に情報と関わりながら学習を進めたり、情報を分かりやすく発信・伝達して互いの考えを共有し深めたり、学んだことを蓄積し活用したりする場面が生まれます。

参考資料　・「中等教育資料」令和３年7月文部科学省教育課程編集　・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編平成29年7月　文部科学省

令和３年度学力向上推進プロジェクト事業に係る

授業力ブラッシュアップ研修重点校授業発表会

令和３年７月６日（火）に、日立市教育委員会の協力のもと、日立市立日高小学校において国語の授業発表会を開催しました。今回は説明的文章における「読解力向上」に向けた授業実践についてご紹介いたします。（日立市内の小・中学校の先生方を対象にMicrosoftTeamsを使ったオンライン開催）

研究主題

読む力を高めるための国語科指導の在り方
～叙述をもとに文章全体の構成や内容を捉えるための工夫を通して～

児童の実態　（令和２年度学力定着度調査結果から）

・目的に応じて、文章の内容を的確に捉える力に課題が見られる。
・読み取った内容について自分の考えをもち、表現する力が十分ではない。
・問題文の題意を正しく捉え、条件に即して答えることができない児童が多く見られる。

主題にせまるための手立て

思考ツール・・文章構成表や全文シートを使って文章全体を理解し、児童の考えを比較したり、関連付けたり、修正したりする
交流・・・・・目的を明確にした交流を位置づけ、一人一人が必要感をもって参加する

公開された授業について

	第３学年	第５学年
単元名 教材名	だん落の内ようをとらえて、「自ぜんのかくし絵ブックを」をつくろう 「自然のかくし絵」	伝えたいことをまとめて、家族に報告しよう 「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」
単元で身に付けたい資質・能力	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えることができる。(C（１）ア)	・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(C（１）ア)
本時の手立て	・段落相互の関係に着目するための「つなぐ言葉」や「はじめ・中・おわり」を捉えやすくする文章構成表の活用（構造と内容の把握） ・文章構成表を活用した話合い（考えの可視化）	・筆者の考えの中心を捉えやすくする文章構成表の活用（構造と内容の把握） ・全文シートを活用した話合い（考えの可視化）
ICTの利用	・各グループが考えた「はじめ・中・おわり」の分け方を電子黒板に提示	・タブレットで撮影した文章構成表や全文シートを電子黒板に提示

指導助言

講師の義務教育課 鈴木優子指導主事からの助言として、「読むこと」の指導について次のポイントが示されました。

１　育成を目指す指導事項の再確認をすること
　・本単元では、「何をどの程度まで」育成することを目指すのか。
２　資質・能力を育成するための言語活動を設定すること
　・設定した言語活動を通して、単元で目指す資質・能力を育成できるか。
３　「指導と評価の一体化」を目指した授業を構想すること
　・目標を実現できた児童の姿を具体的に想定する。

・授業者はヘッドセットを着用
・教師側からの全体、机間指導、背面側からの全体のカメラ３台を設置
・ノートやワークシートをタイムリーにチャットで紹介
・日立市内の学校から25名がオンライン参加

参加者のアンケートより

今回の授業公開では、研究協議の実施ができなかったため、オンラインを参観された先生方へアンケートを実施しました。

【授業公開について】
・個人で考える時間があり、叙述に即して内容を捉えられていました。
・グループ活動では先生の問いかけをきっかけに、考えを深めていったことが実感できました。
・交流をしたことで、児童の気づきが多くありました。
・筆者の考えの中心となる一文を、文末表現や題名を根拠に判断し、選ぶことができていました。

【オンライン開催について】
〇カメラが３台設置され、好きな画面を選択して参観することができました。
〇チャット機能で児童のノートやワークシートの写真が送信され、大変参考になりました。
〇コロナ禍で、今できる形での研修を開催していただき大変有意義でした。
△児童の発言が聞きづらい部分があったので、発言を拾えるマイクがあると良かったです。

☆授業を公開してくださいました日立市立日高小学校の先生方には、心より感謝申し上げます。

第2回目の発表会は11月２日（火）です。